学　校　便　り　　琢磨

第２０号　R2.9.18　三豊市立詫間小学校

「孫の手作戦パート１０」がありました！

９月１５日（火）に６年生、９月１７日（木）に５年生が、「孫の手作戦パート１０」を行いました。「孫の手作戦」とは、高齢者の交通事故を減らすために、毎年、敬老の日にあわせて、「孫が祖父母に対して交通安全を呼びかけるメッセージカードと反射材を郵送するという交通安全事業」で、今年で１０年目となります。香川県警察本部が JA 共済の協力を受け行っている取組です。

三豊市は、毎年１５０人程度の児童が、この作戦に参加します。今年は、詫間小学校の５、６年生が選ばれました。

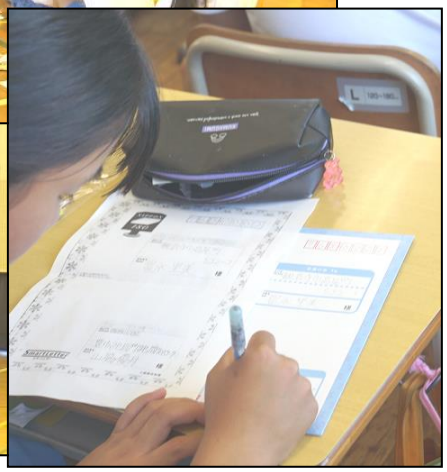
まず、体育館を暗くして、反射材がどのように見えるのかの実演も交えて、三豊警察署の交通課の方からお話を聞きました。

児童代表がお礼のあいさつをした後、各教室に戻り、子どもたちは、おじいさんや、おばあさん、家族の方等にメッセージカードを真剣に書き、靴用の反射シール、キーフォルダー、リストバンド、自転車のスポークに付ける反射材からプレゼントしたい物を各自選んで、レターパックに入れました。

通学路に郵便ポストがある子どもたちは、学校からの帰りに投かんしたようです。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため祖父母に会うことができなかった子どもたちも多かったのではないでしょうか？

この取組が、交通安全だけではなく、心のふれあいの機会にもなったら幸いです。



授業参観・体育集会（リレー）の公開を実施します！

体育集会（リレー）の公開　いずれの日も８：１０～８：２０　雨天中止（中止の時はメール配信）

１・３・５年生…１０月１２日（月）、１０月１９日（月）、１０月２６日（月）

２・４・６年生…１０月１６日（金）、１０月２３日（金）、１０月３０日（金）

授業参観　１０月２１日（水）　１・３・５年生…１３：２０～１４：０５

２・４・６年生…１４：１５～１５：００

※　詳しくは、本日配布のお知らせをご覧ください。

私が３０歳を過ぎてピアノの練習を始めた理由

だいぶ前の「独り言」で、「ピアノ、習字、そろばんの習い事」がクビになってしまったという話を書きました。そして、ピアノは、３０歳を過ぎてから、独学（どくがく：誰にも教わらずに自分一人で学ぶ）で練習を始めるようになったということも書きました。今日は、その理由についてお話しします。

私は、大学を卒業してすぐに学校の教員になりました。最初の４年間は、三野町の大見小学校に勤務したのですが、次に転勤したのは高松市の中心部にある大きな学校でした。その学校で、私は４年赤組（白、青、赤、黄組の１学年３～４クラスがあった）の担任をしていました。その学校は、児童の転出入が多くて、学期末には、決まって１クラス、数名の子どもたちが転校していきました。Ａさんという女の子も、私が１学期間だけ担任して夏休み前に転校していきました。

後１週間くらいで１学期の終業式というある日の夕方。すでに１学期末で転校することが決まっていたＡさんのお母さんから電話がありました。

「先生に、お願いがあって電話しました。１学期の終業式を最後に、うちの娘は転校するのですが、娘は毎日、ピアノの練習を一生けん命しているんですよ。どうやら、終業式の後のお別れ会の時のために練習しているみたいなんです。先生もご存じのとおり、うちの娘は人前では上手に話すことができませんので、みんなの前に出てもきっと、お別れの言葉も言えないと思います。娘は、言葉の代わりにピアノでお別れの気持ちを伝えようとしているのだと思います。そう娘が思っていても、そのことを自分から先生に伝えることはできないと思います。親バカだと笑っていただいても結構です。何とか、娘の思いをかなえてやりたいと思って、勝手なことは承知の上で電話をしました。」

Ａさんは、お母さんの言うとおり、授業中に手を挙げて発表したことは一度もありませんでした。私が指名しても、だまったままうつむいて、何も言わないということがほとんどでした。休み時間に、仲の良い友達とはお話をしますが、私が話しかけても、うなずくか首を横に振るかしかしませんでした。きっと、お別れ会の時も、クラスの前に出て話すことができずに立ちすくんでしまうと思います。そのＡさんが、最後にピアノを弾いてお別れの言葉に代えたいというのです。私は驚きました。

終業式の後、Ａさんを含め３人の転校していく友達とのお別れ会をしました。ゲームをしたり、手作りのプレゼントを渡したり・・・。４５分しか時間を取ることができませんでしたが、楽しい会でした。お別れ会の最後に、転校していく子どもたちに、お別れのあいさつをしてもらいました。Ａさんは、やっぱり何も言わずに、軽く頭を下げただけでした。

いよいよ帰る準備ができて、「さようなら」という時に、私は、クラスの子どもたちを音楽室に連れて行きました。「先生、どこに行くの？」「早く帰らせてよ！」「他のクラスは、もう帰ってるし！」と、文句を口々に言っていた子どもたちも、

「Ａさんは、今日で転校しますが、最後にどうしてもみんなにピアノを聞いてもらいたいと一生けん命練習してきたそうです。１曲だけ、聞いてから帰ってください。」

という私の言葉に、シーンとしました。その静かな音楽室に、Ａさんがピアノに向かって歩く足音だけが響きました。

Ａさんは、フーッと深い息をはいてから、とても美しい曲を演奏してくれました。曲の名前は分かりませんが、私には、いやクラスのみんなにも、「さようなら。これまで仲良くしてくれてありがとう。私のことを忘れないでね。私もみんなのことは絶対に忘れない。」と言っているように聞こえました。まちがいなく、そう聞こえました。

私はこの時、ピアノってすごいなあ、自分もＡさんのように、１曲だけでいいからピアノを弾けるようになりたいなあと心の底から強く思いました。

そういうわけで、幼い頃、クビになったピアノを、私は３０歳を過ぎてから、独学で練習を始めるようになったというわけです。「おじさん」になってから、気が向いた時だけ練習し、しかも独学ですから、大したことはありませんが、ほんの何曲かは弾けるようになりました。もし、機会があれば、私の少ないレパートリーの中の１曲を、いつか皆さんにも聞いていただきたいと思います。

ちなみにＡさんは大きくなってから都会で「ウエディングプランナー」のお仕事をしているそうです。何と、お客様と話し合ったり、大勢の人の前で話したりすることが中心のお仕事だそうです。